

1

C G Am F G C
 ホザナ ホザナ 王の王イエス
 F G Em Am Dm G7
 喜び むかえよ イエスが来られる
 C G Am F G C
 ホザナ ホザナ 王の王イエス
 F G Em Am Dm G7 C
 喜び むかえよ イエスが来られる

やすけさは かわのごとく

1.

やすけさは かわのごとく
 ころひたすとき かなしみは波のごとく
 わがむねみたすとき
 すべて やすし みかみともにませば

2.

あしきもの せまりくともころみありとも
 み子イエスの 血のいさおし
 ただ頼むわが身は
 すべて やすし みかみともにませば

It is well with my soul
 It is well It is well with my soul
 with my soul

イエス様についてゆく

C F/C C
 イエス様についてゆく
 C/E F C G7
 イエス様についてゆく
 C F/C C
 イエス様についてゆく
 Dm9 F/G C
 どこまでも どこまでも

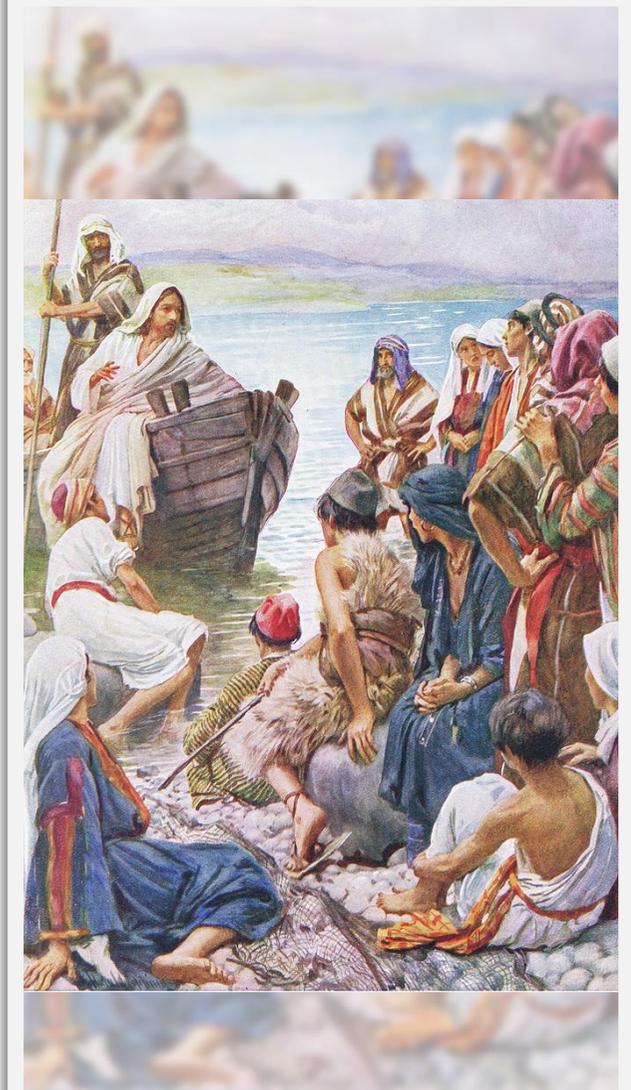
5

祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り
5. 日本と世界の平和を願って...

- ・大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ・瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ・教会が成長しますように!

- ① 信徒の皆様が恵まれた信仰生活を送り、キリストの似姿に変えられる成熟と祝福に与りますように
- ② 新しい方が来られますように、未信者の方がイエス様を信じ、救われ、洗礼に導かれますように
- ③ 地域の方々に良い証がたてられ、神の国が広げられますように。
- ④ 瀬戸市・愛知県・日本全国・世界宣教のために用いられる教会となりますように。



祈りの小径(こみち)

Number: 059 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899
 牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

マタイによる福音書4章18～20節

18 さて、イエスがガリラヤの海べを歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。19 イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。20 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。

ルカによる福音書5章1～11節

1 さて、群衆が神の言を聞こうとして押し寄せてきたとき、イエスはゲネサレ湖畔に立っておられたが、2 そこに二艘の小舟が寄せてあるのをごらんになった。漁師たちは、舟からおりて網を洗っていた。3 その一艘はシモンの舟であったが、イエスはそれに乗り込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の中から群衆にお教えになった。4 話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。5 シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。6 そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいて、網が破れそうになった。7 そこで、もう一艘の舟にいた仲間に、加勢に来よう合図をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、舟が沈みそうになった。8 これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。9 彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。10 シモンの仲間であったゼバダイの子ヤコブとヨハネも、同様であった。すると、イエスがシモンに言われた、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」。11 そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従った。

3

黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

スペースが少ないため5の祈りのガイドラインの下をご利用ください

夜明けの岸辺に立つキリスト (ヨハネ21章) 5/2 礼拝

1. あなたにも朝が来る(希望)
2. 右に網を下ろす＝見ないで信じる(信仰)
3. 自らイエス様の方へ泳いでゆく(自由のある愛)

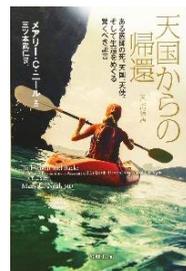
弟子達が遣わされる者となるために

イエス様の3つの命令 (ヨハネ20章) 4/29 祈礼会

1. 安かれ(平安を受けなさい)
2. 息を吹きかける(聖霊を受けよ)
3. 見ないで信じる者になりなさい(神を信じなさい)
＝御名によって生きる(私の名で求めなさい)

私の日ごとの信条 (毎日告白する祈り)

1. 神の約束は真実であると信じる
2. 天国は本当にあると信じる
3. 私を神の愛から引き離すことは何ものにもできないと信じる
4. 私には神から託された仕事があると信じる
5. 神はずっと私を見守り、私があるけない時には私を担ってくださいと信じる



私の日ごとの信条 (毎日告白する祈り)

あなたは何を信じて御名によって祈りますか？

- 1.
- 2.
- 3.

4

みことばの解説



あなたの栄光を示してください！
Show us Your Glory! 出エジプト33の18

私たちはユダヤ人から見たら「異邦人」。復活のイエス様が【大宣教命令】を語られた後、異邦人伝道のフロンライン(最前線)に立ったのは使徒パウロですが、その扉を開き、宣教の道筋を整えたのは使徒ペテロでした(使徒行伝10章)。ですから、『人間をとる漁師にしてあげよう』と言われた彼のネット(網・Net)に私たちもいま入って救われたと言っても過言ではありません。

彼がそのように主の招き(召命)に応えることができたのは「一度」の出来事がきっかけであった訳ではなく、三年間のイエス様との歩みの中で得た様々な経験が、(堅固な城壁が大小の石のように積み重なって築き上げられるように)、彼の生涯の土台になっていったのです。

「みことばに親しみ・膝をかがめて祈る」ことは、イエス様と共に歩むこと。それは私たちの生涯の土台を作り、砂の上でなく、岩の上に家を建てる(マタイ7章)賢い生き方です。その三年間にあった、次の重要な3つ決断は、彼の生涯の大きな道筋になりました。

- ① ガリラヤの岸辺で海に網をうっている時に声を掛けられた最初の召命(マタイ 4:18-20) **直感**
- ② 主のもとに多くの群衆が集まっていた時、ペテロの舟で主がメッセージを語られたのち、大漁の奇跡を体験したペテロへの召命(ルカ 5:1-11) **畏敬の念**
- ③ 復活の主と夜明けの岸辺で逢った時に、再び大漁の奇跡を体験し、「私を愛するか」と三度招かれた最後の召命(ヨハネ 21:1-23) **愛と赦し**

イエス様がどうしてもガリラヤ湖でペテロに会いたかった理由はここにあります。神様の選びと召しを何度も分かり易く「確認(confirmatio)n」したペテロは、主の声に従って「漁をする」なら何かが起こる！と、たとえ収穫ゼロでも大胆に、福音宣教の業に励んだのです。